

<第90回調査>

2016年11月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2016年11月15日(火)13:00~2016年11月22日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は928件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

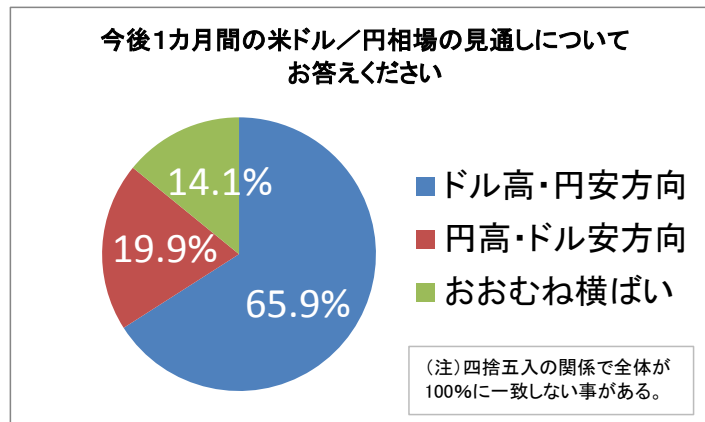
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第90回調査結果略報：米ドル強気・円弱気予想が拡大】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

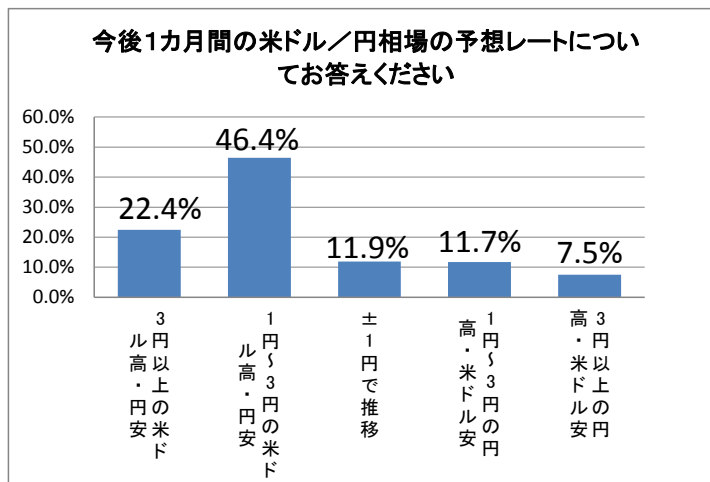
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が65.9%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は19.9%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は△46.0%ポイントと1年ぶりの高水準を記録するとともに、今年初めて2カ月連続でプラスDIとなった。調査期間中のドル/円相場は米長期金利の上昇と歩調を合わせて107円台後半から111円台前半までほぼ右肩上がりで推移。トランプ次期米大統領による財政拡張観測や米連邦準備制度理事会（FRB）による12月利上げ観測が米長期金利と米ドルを押し上げる中、個人投資家の予想も米ドル高・円安方向に一段と傾いたと見られる。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が46.4%と最も多く、「3円以上の米ドル高・円安」が22.4%と続いた。そして「±1円で推移（11.9%）」、「1円～3円の円高・米ドル安（11.7%）」、「3円以上の米ドル高・円安（7.5%）」と続いた。なお、「3円以上の米ドル高・円安」が前回調査の12.1%から10%ポイント以上増加した点が最も特徴的であり、5人にひとりが米ドル/円相場の大幅上昇を予測している事になる。問1の予想DI以上に強い先高感が表れた調査結果と言えるだろう。

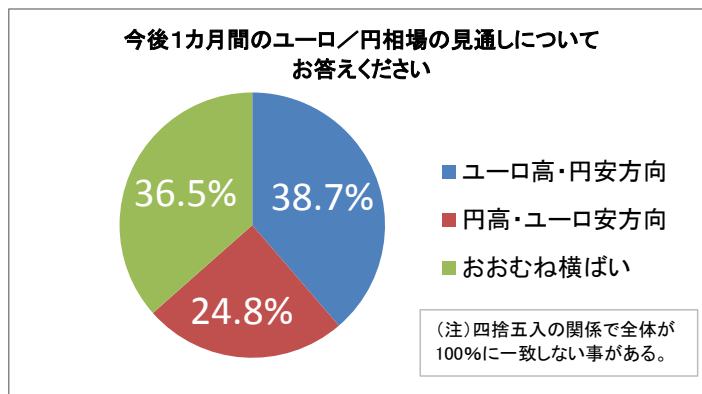


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

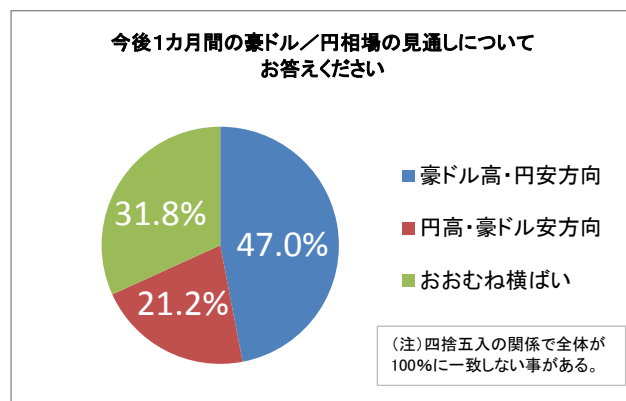
問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が38.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が24.8%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は△13.9%ポイントと、15カ月ぶりのプラスDIとなった。DIのプラス幅は2014年11月以来2年ぶりの大きさだ。調査期間中のユーロ/円相場は、米ドル/円に引っ張られる形で116円台前半から118円目前まで上昇した。約4カ月ぶりの水準を回復した事によって、個人投資家の間で「底入れ観測」が広がり始めたと思われる。もっとも、米ドル/円予想DIほど強気に傾かないのは、対ドルではユーロが弱含んでいるためだろう。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が47.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は21.2%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は△25.8%ポイントとなり、前回調査(△20.3%ポイント)に続き2カ月連続でプラスDIとなった。調査期間中の豪ドル/円相場は、82円台後半で伸び悩むと81円台に押し戻されるなど、上値が重い様子も見られたが、個人投資家の強気姿勢はむしろ拡大した格好だ。トランプノミクスへの期待などから先進国全般で株高が進んでいる事が見通しに影響した公算が大きい。
※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



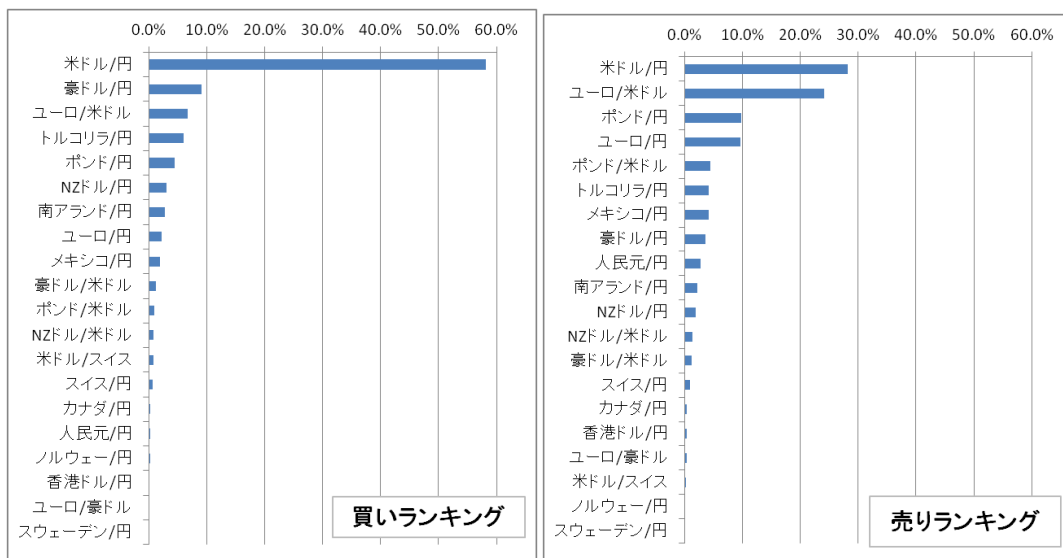
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が58.2%の回答割合を集めて1位となった。以下、大きく差が付いて2位に豪ドル/円(9.2%)、3位にユーロ/ドル(6.7%)、4位トルコリラ/円(6.0%)、5位ポンド/円(4.5%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位が米ドル/円(28.2%)、2位ユーロ/ドル(24.1%)、3位ポンド/円(9.8%)、4位ユーロ/円(9.7%)、5位ポンド/米ドル(4.4%)となった。

「買い」で注目のランキングは米ドル/円が2位以下に圧倒的な大差を付けて50カ月連続で首位の座をキープした。足元で進む米ドルの独歩高を追認するかのように人気を独占している。一方、「売り」で注目のランキングは前回首位のポンド/円が3位に後退。替わって首位に立ったのはこちらも米ドル/円であった。ポンド/円については、英国の欧州連合(EU)離脱問題への懸念がやや和らいだ事が影響した模様だ。米ドル/円の首位については、「買い」で注目する向きが圧倒的に多かった裏返しと見られる。「売り」は「売り」でも、利益確定のタイミングを窺う格好での注目度上昇と考えるべきだろう。

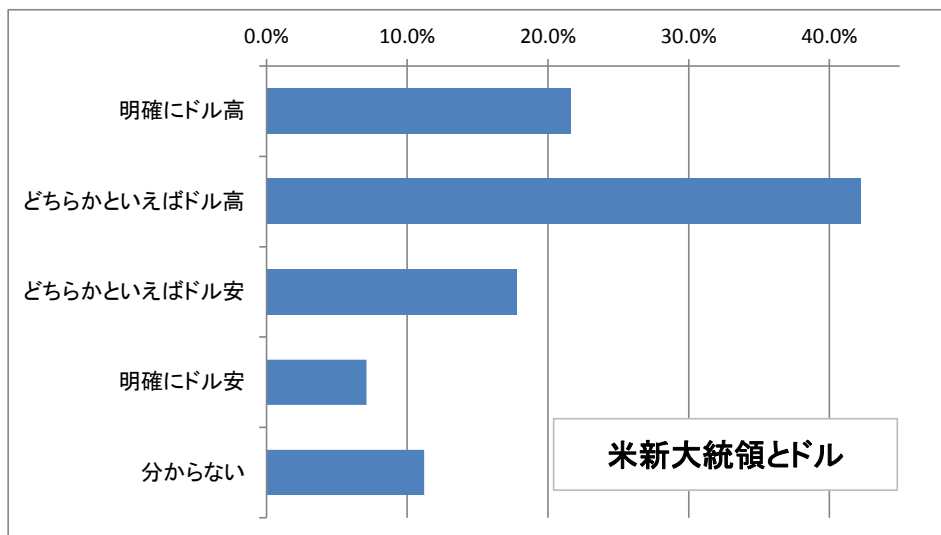


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6:アメリカの新大統領が決まりました。今後、ドルはどのように推移するとお考えですか？また、その理由をコメント欄へお書きください。

今回の特別質問として、「アメリカの新大統領が決まりました。今後、ドルはどのように推移するとお考えですか？」と尋ねたところ、「どちらかと言えばドル高」が42.2%と最も多く、「明確にドル高」が21.7%で続いた。さらに、「どちらかと言えばドル安」が17.8%、「明確にドル安」は7.1%に留まった。「トランプ大統領誕生なら米ドル安(円高)」という選挙前の見立てとは反対に、市場では将来の財政拡張策を見込んで米ドル高が進んでいるが、この回答結果は個人投資家がそうした現状を概ね追認している証左であろう。ただ、調査期間中に大きく米ドル高が進んだにもかかわらず、「トランプ次期大統領」を米ドル安材料として見る向きの合算割合が24.9%に上ったのは見逃せない点だ。彼らの自由回答では「いずれ保護貿易に舵を切ってドル安に誘導する」との見方や「政治的混乱が起きる」との見方が示された。その他、「期待が先行しすぎであり、そのうち失望に変わる」との指摘もあった。こうした回答を見ると、米ドル高が進む裏側で米ドル売りのタイミングを窺っている個人投資家の存在が浮かび上がる。「売り」で注目の通貨ペアの首位が米ドル/円であった問5の結果とも整合的だろう。なお、「トランプ次期大統領」を米ドル高材料とした向きからは「景気刺激によるインフレ上昇」とそれに伴い「利上げ期待が高まる」との回答が目立った。

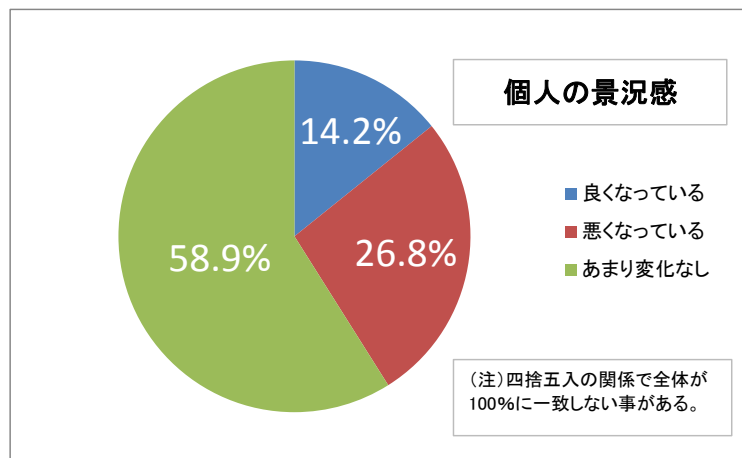


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

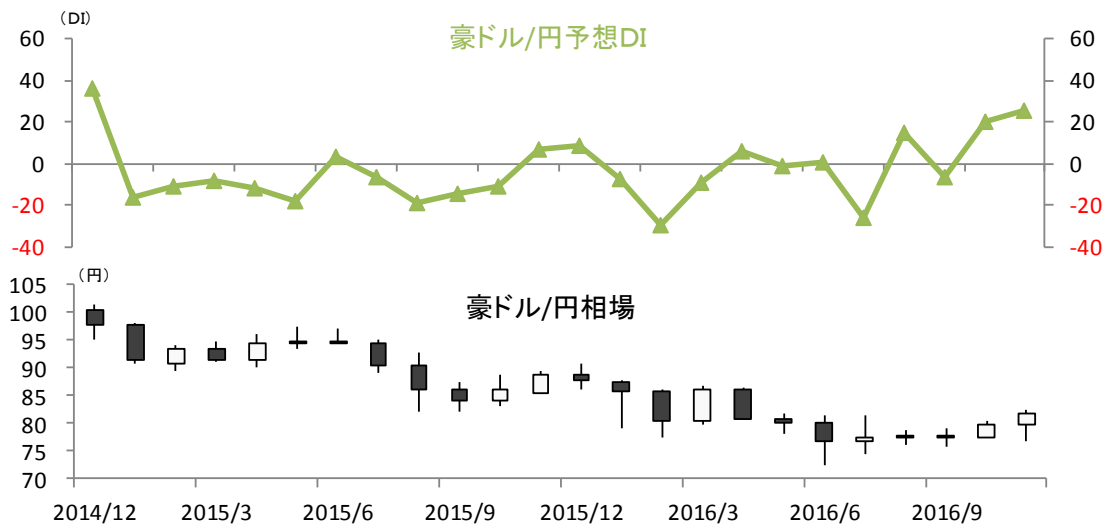
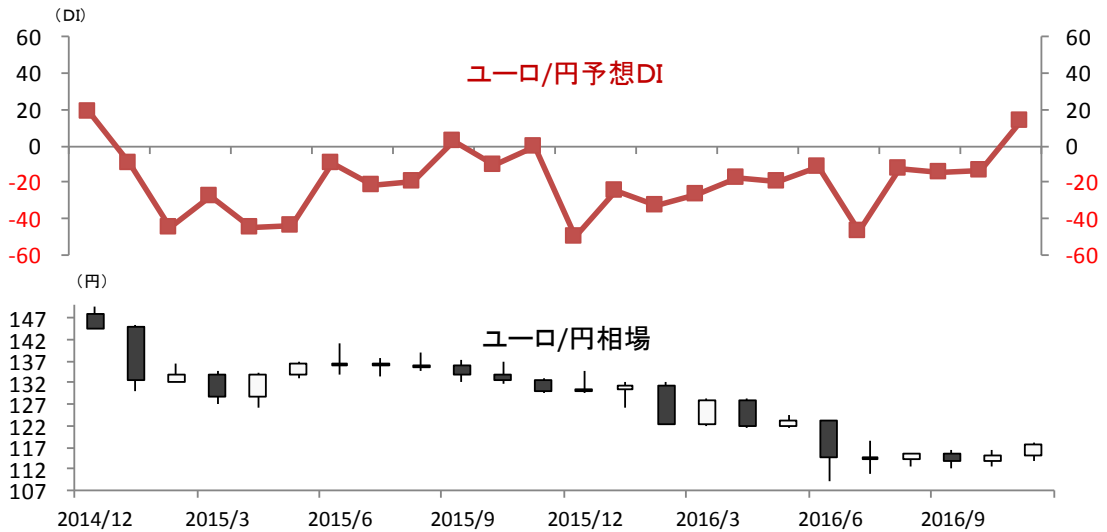
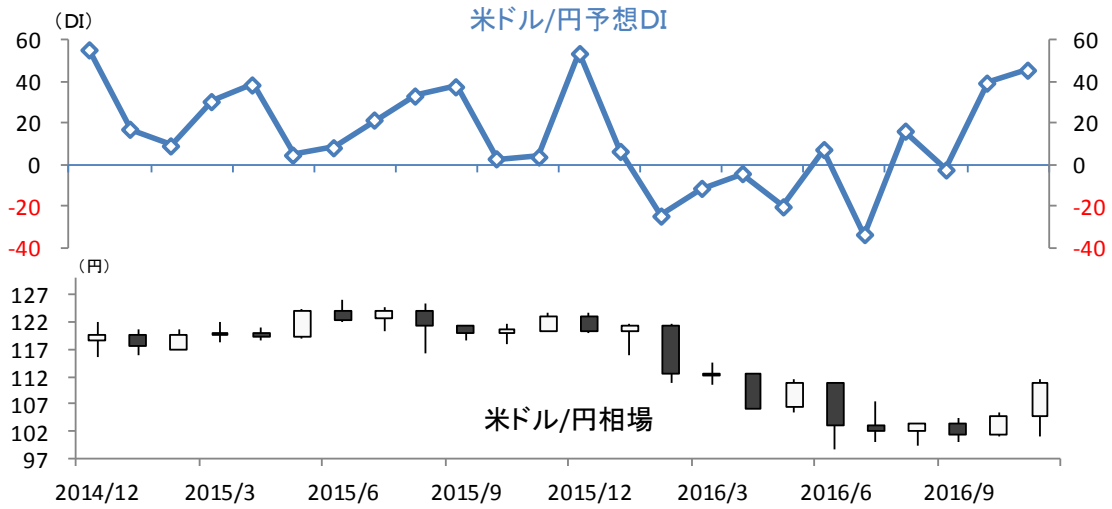
今回のもうひとつの特別質問項目として、「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が14.2%、「悪くなっている」が26.8%であった。また「あまり変化なし」が最大の58.9%に上った。引き続き「悪くなっている」とした割合が「良くなっている」を上回る状態が続いているが、3カ月前の8月調査で同じ質問をした際と比べると、「良くなっている」がやや増加(8月:8.3%)した一方、「悪くなっている」は減少(同:38.7%)した。個人投資家の景況感は改善したとは言いきれないものの、底入れから持ち直しを開始したように見える。次回(2017年2月予定)の調査結果でさらなる進展が見られるか期待して待ちたい。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第90回目となりました。調査開始から7年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2014年	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com